

庁議記録

日 時 平成30年9月5日（水）

16:50～17:20

場 所 テレビ会議室

【阿部副知事】

それではただいまから、庁議を開催いたします。

早速議事に入りたいと思います。初めに、総務部から「台風第21号」について説明をお願いいたします。

【橋本危機管理監】

危機管理監の橋本でございます。非常に強い台風第21号の影響により、昨日から関西地方を中心に記録的な暴風雨となり、亡くなられた方や負傷された方が多数にのぼり、甚大な被害が生じているところであります。こうした中、道では、昨日の12時に災害対策連絡本部を設置し、厳重な警戒態勢を敷き、市町村や関係機関と連携しながら、対応してきたところであります。今回の台風につきましては、昨夜から昼前にかけて本道に接近・通過したところであり、道内でもかなりの暴風、大雨となりました。産業被害などの被害状況につきましては、この後、各部長からご報告があると思いますが、現時点で把握できている被害状況等につきましては、お手元の資料「平成30年台風第21号による被害状況等第2報」に記載のとおりでございます。アンダーラインを引いておりますところが、第1報、今朝の10時の状況からの変化のあったところであります。人的被害といたしましては軽傷の方が4名、程度不明の方が1名と5名に増えております。また、住家被害では、一部損壊が308件などの被害が発生したところであります。その他の動きにつきましては、ご覧いただきたいと思いますが、ライフラインなどについては、徐々に回復をしている状況でございます。なお、台風につきましては、既に本道周辺を離れまして、気象警報も全て解除されたところであります。新たな災害が発生するおそれもなくなったことから、災害対策連絡本部については16時30分をもって廃止をいたしました。まだ9月ということでございます。例年台風の発生しやすい時期でもございますので、今後の気象に十分注意するなど、全庁をあげまして気を緩めることなく対応していく必要があるものと考えております。以上でございます。

【阿部副知事】

ありがとうございました。次に、建設部から説明をお願いいたします。

【岡田建設部長】

お手元の資料に基づきまして、被害状況の（4）ライフラインなど公共土木関係につきまして、ご報告いたします。まず、道道の状況であります。倒木の恐れなどの危険性から69路線80区間の通行止を行いました。本日14時現在で33路線35区間が通行止めとなっております。なお、千歳市におきまして倒木による車両被害が1台ありましたが、人身の被害はありません。

5の河川氾濫であります。3河川で水防警報を発表いたしました。14時現在で全て解除になっており、河川氾濫もありません。なお、がけ崩れの被害もありません。以上でございます。

【阿部副知事】

ありがとうございました。次に、農政部から説明をお願いいたします。

【梶田農政部長】

農政部です。市町村や農業改良普及センターなどからの情報によると、強風により、石狩・空知・日高などを中心にビニールハウスの損傷や、露地野菜や飼料用トウモロコシの倒伏が発生しております。また、りんご等の果樹の落果などにつきましては、空知、後志、胆振、渡島、留萌などで見られております。停電が続いている地域では、搾乳作業に支障が生じていることから、引き続き、被害状況の把握に努めるとともに、台風被害による影響が最小限にとどまるよう、農業改良普及センターを通じ必要な営農技術指導を行うなど関係機関・団体と十分に連携しながら、被災した農家の皆さんが安心して営農を継続できるよう万全を期してまいります。

【阿部副知事】

ありがとうございます。続いて、水産林務部から説明をお願いいたします。

【幡宮水産林務部長】

水産林務部です。水産・林業関係の被害状況につきましては、現在、振興局を通じて詳細な内容を調査中ではございますが、水産関係では、漁港施設の破損などの情報を把握しているほか、定置網や養殖施設などの被害状況につきましては、今後、時化がおさまるのを待って、本格的な調査を行うこととしております。また、林業関係では、強風による倒木や降雨に伴う土砂災害などが懸念されることから、引き続き、被害の速やかな把握に努め、被害が確認された場合は、迅速に対応していく考えでございます。以上でございます。

【阿部副知事】

ありがとうございました。それでは、次に、交通企画監から発言をお願いいたします。

【黒田交通企画監】

台風第21号による各交通機関の影響についてご報告を申し上げます。鉄道につきましては、本日15時現在、JR北海道において、函館本線の札幌－旭川間、千歳線快速エアポート、日高線において運休が発生しているところです。今回の台風では極めて強い風が広範囲にわたり、倒木や送電線の断線に伴う停電が全道各地で発生し、列車の運転見合わせや運休等が多数発生しており、現在復旧に時間を要しているところでございます。道では、本日、JR北海道に対しまして、早期の運行再開に向け、全力をあげるよう要請を行ったところでございます。

次にバスに関してでございますが、車両等への被害は報告されておらず、本日は、ほぼ通常運行となっております。

フェリーであります。本日は稚内－利尻間や羽幌－天売間などを中心に45便が欠航している状況でございます。

また、被害状況に関して申し上げますと、苫小牧港や白老港において一部倒木やフェンスの破損等の被害が報告されております。

最後に航空機の状況でございますが、本日は被害の大きかった関西方面に向かう便を中心に41便が欠航しております。また、空港施設の被害状況でございますが、新千歳空港において国際線ターミナル仮設壁の一部破損等の被害があったとの報告を受けております。

人的被害はありませんが、各交通機関において運休など台風被害の影響が残っておりますことから各被害状況の把握と早期の運行再開に向けて働きかけを行ってまいります。以上でございます。

【阿部副知事】

ありがとうございました。次に、2番目の議題であります「各振興局が実施する北海道150年事業」につきまして、はじめに総合政策部、続きまして胆振総合振興局、渡島総合振興局、留萌振興局からそ

れぞれ発言をお願いいたします。

【小野塚総合政策部長】

総合政策部でございます。北海道150年事業につきまして、ご報告を申し上げます。まず、先月5日に天皇皇后両陛下がお見えになりました記念式典につきましては、約2,900名の方々のご参加があり、滞りなく終えることができました。様々な形でのご対応等をいただきまして、厚く御礼を申し上げたいと思います。また、7月14日から8月26日までの約6週間、多くのイベントを集中的に実施しました北海道150年ウィークにおきましても、種々ご対応いただき、重ねて感謝申し上げます。

資料の1-1をご覧くださいと思います。全道各地で多様な主体により実施する北海道みらい事業につきましては、1,000件を超える事業を実施しているところであります。こうした中で、各振興局におかれても、地域の方々と連携して、様々な取組が行われており、資料の2ページ目及び3ページ目に取組の主なものを取りまとめました。実施内容を見ると、例えば、石狩では、地域の魅力と北海道150年を伝えるブックカバーの作成・配布や、日高・オホーツクでは地域の未来を考える講演会やフォーラムの実施など、各振興局で工夫をこらした記念事業が実施されております。本日は、地域と連携して取り組んでいる事業を、3つの振興局から報告していただきたいと思います。まず、胆振総合振興局から報告をお願いします。

【山口胆振総合振興局長】

胆振です。お手元の資料1-2をご覧ください。胆振総合振興局では、明治政府により「胆振国（いぶりのくに）」が設置されてから150年でもあることを踏まえまして、これまでの地域の歴史を振り返りながら、胆振の「次の50年」を考えるフォーラムを室蘭民報社さんとの共催により、9月9日に室蘭市内で開催することとしております。資料の左下でございますけども、フォーラムは2部構成を予定しており、第1部では、胆振の歴史、羊蹄山麓地域と西胆振地域の交流、さらに、アイヌ語で「美しい地形」を意味しますピリカノカの魅力などのテーマで、3名の講師からお話をいただくこととしております。また、第2部では、その3名の方のほか、2020年、白老町に開設されます民族共生象徴空間の運営に携わる方などにも加わっていただいて、パネルディスカッションを行うこととしております。本年6月の室蘭市と宮古市を結ぶ宮蘭フェリー航路が就航しましたが、今後の象徴空間の開設や北海道新幹線の延伸なども含めまして、「次の50年」を見据えた胆振の地域振興に向けて、意義のあるフォーラムにしたいと考えてございます。以上であります。

【小野塚総合政策部長】

ありがとうございました。次に、渡島総合振興局から報告をお願いいたします。

【小田原渡島総合振興局長】

渡島でございます。資料1-3の1ページをご覧ください。渡島では、「歴史をつむぐ、未来へつなぐ」をテーマに、地域の歴史や文化にスポットをあて、記念イベントをはじめ、バスツアー、植樹など5つの事業を展開しておりますが、今日はそのうち3つをご紹介します。

まず、1つ目、資料の2枚目をご覧ください。今回の渡島の事業のメインとなります9月22日に開催します150年記念イベントについてです。まず、上の四角で囲っております「歴史をつむぐ、未来へつなぐ」のパートでは、今年、国の重要無形民俗文化財に指定された「松前神楽」の公演のほか、縄文文化や、松浦武四郎のパネル展を実施します。

次に、「未来へつなぐ」パートとして、ノーベル化学賞を受賞された北大名誉教授の鈴木章先生に「子どもたちへのメッセージ」と題しまして、ご講演いただき、鈴木先生が北海道から世界に飛び出し、活躍のきっかけとなった出来事や出会い、また、研究への思い、学ぶ楽しさなどについてお話しいただきます。

続きまして、資料の3枚目をご覧ください。「道南れきぶんカード」についてです。この取組は、当振興局の若手職員のアイデアを基に、道南の史跡や観光地を紹介するもので、20箇所のカードを作成し、各市町において配布することで、一般の方々にカード集めの旅をしていただき、道南の歴史文化を知っていただくという取組です。この取組は、渡島総合振興局、檜山振興局及び道南うみ街信用金庫の包括連携協定に基づいて実施しており、カードは3者の若手職員が各市町の協力をいただきながら作成しました。既になくなったカードもあり、好評をいただいているところであります。

最後に、資料の4枚目をご覧ください。「北前船の魅力を知る文化体験学習バスツアー」についてです。昨年、江差町、函館市及び松前町が、日本遺産に認定されたことを契機に檜山振興局と共催して北前船などをテーマに中学、高校生を対象とした北前船の魅力を知るバスツアーを9月に2回実施します。

以上これら5つの事業を通じて、特に子どもたちが、あらためて道南地域の歴史文化にふれ、これからは考えてもらい、次の200年の節目の年には、この150年の年を思い起こしてもらえそうな、そのような機会を作ってまいりたいと考えております。渡島からは以上でございます。

【小野塚総合政策部長】

ありがとうございました。それでは最後に、留萌振興局からお願いいたします。

【松浦留萌振興局長】

留萌です。お手元の資料1-4に基づき、当振興局の150年事業に関し、増毛山道推進事業について、ご説明いたします。

留萌振興局では、松浦武四郎が蝦夷地探検において蝦夷地第一の出来映えと絶賛し、平成28年に27kmの全線が復元された「増毛山道」に着目いたしまして、武四郎の足跡を追体験する事業などを展開することによって、山道の歴史・文化遺産としての価値を発信するとともに、次の世代への継承を目指す内容となっております。

まず最初に山道シンポジウムですが、北海道博物館の三浦学芸主幹による「松浦武四郎の蝦夷地探検と山道の役割」と題した基調講演や「増毛山道の利活用と保全」を考えるパネルディスカッションといった内容で、8月18日増毛町において開催し、約80名の参加があったところです。参加者のアンケートでは、歴史の語り部の育成や、山道を軸としたワークショップ開催などの意見がありましたので、今後の取組の参考としたいと考えております。

次に、増毛山道学習会ですが、山道を次世代へ継承するため、山道の起点終点到位置します石狩市浜益小学校と増毛町増毛中学校の子供たちを対象に、増毛山道の会などのほか、国土地理院北海道地方測量部の清水次長を講師に招き、増毛山道の歴史や自然、測量史等に関する学習会を実施しております。

また、松浦武四郎の蝦夷地探検を追体験する事業として、増毛山道の会と民間企業との協働事業として、記念トレッキングを7月6～7日を皮切りに、10月6～7日まで計8回実施することとしております。

その他、武四郎が設置を命じた駅通と武四郎に関する解説看板を設置し、8月23日に増毛中学校の生徒たちとともに除幕式を終えましたほか、増毛山道開削者である増毛の商人、伊達林右衛門氏の業績を記した標柱を山道を望むことができる雄冬山山頂に設置し、来週9月15日に除幕式を実施する予定となっております。

こうした取組を通して、北海道の歴史・文化を学び、将来に継承する気運を盛り上げているところであります。以上です。

【小野塚総合政策部長】

ありがとうございました。北海道150年事業につきましては今年12月末まで続くこととなります。皆様には、引き続き、企業や団体・市町村の方々とも協力しながら、道民の皆様にとって心に残る記念事業が全道各地で進めていただきますよう、お願いいたします。北海道150年事業については以上です。

【阿部副知事】

ありがとうございました。本件に関し、何かご発言等ございますでしょうか。

それでは次に、議題の3番目、「農作物生育状況等」について農政部から説明をお願いいたします。

【梶田農政部長】

資料2をご覧ください。台風の被害とは別に、これまでの農作物の生育状況等につきまして、ご説明をさせていただきたいと思っております。

気温、降水量、日照時間と8月単月ベースでの経過をまとめてございますが、今年は平年と違いまして、4月、5月は比較的順調だったのですが、6月に入りまして気温が下がりがちで、低温傾向が続きました。その後も7月上旬は、大雨で被害も発生し、その後は、ぐずついた天気が続きまして、その中でもとりわけ一部低温がきつめに出た時期がございました。その後、下旬になりまして、猛暑が続くなど夏らしい夏が続いたのですが、8月にまた雨が降るなど、今年は日照不足と気温が低めの中で雨が降る状況が続いております。

めくっていただきまして、9月1日現在の農作物の生育状況等をまとめたものでございますが、「水稻」の生育が、やはり平年よりも生育が5日ほど遅れております。とりわけ、私どもが気にしている点として、穂数が平年と比べ77本少なく87%でございまして、やはり6月、7月の気象経過の影響を受けているということでもあります。また、こうしたことを合わせまして、大豆、小豆など豆類も莢の数が少ないということで今年の収量への影響が心配がされています。

一方、「馬鈴しょ」ですとか「てん菜」などにつきましては、現在、平年並みの生育を確保しており、いわゆる根ものといわれているものについてはまずまずではないかと期待をもっているところでございます。

米につきましては、農林水産省が8月15日現在における全国の作柄概況を報告したところ、北海道はやはり全国的にみても作柄が少し悪いという状況でございまして。今後につきましては、米は今月下旬に収穫の時期を迎えますので、こういう生育のバラツキ、品質の維持を含めまして、現場でしっかり指導を行います。

また、もう一つは酪農の関係として飼料、牧草の生育及び作業が遅れている状況となっております。冬に向けた飼料の確保、技術的な対応について、しっかり現場で対応していきたいと思っております。以上です。

【阿部副知事】

ありがとうございました。本件に関し、何かご発言等ございますでしょうか。

それでは、議題の4番目でございますけども、「職員モニタリング事業等」について十勝総合振興局から説明をお願いいたします。

【三井十勝総合振興局長】

十勝の三井でございます。地場産品を売り込んでいく仕組みを二つご紹介いたします。

資料の3-1をご覧ください。職員モニタリングは、800人以上おります振興局の職員を年齢や出身地、家族構成あるいは趣味などで2~30人のグループにセグメントしまして、ピンポイントのお客さんとして商品进行评估するものでございます。この構想をゴールデンウィーク明けに職員に呼びかけまして、プロの手ほどきを受けた後、6月から企業を募集いたしました。第1弾のパフェは、彩りとトッピングを中心にチェックし、「十勝パルフェ」という名前で発売中です。振興局職員と一緒に開発しましたという札が入り口にかかっておりまして、お昼前に完売してしまう日もあるとのことでございます。第2弾がアイスクリーム、これは通常サイズの半分の量のアイスで500円という値段で売るための工夫といたしまして、60歳前後の母親と一緒に住んでいる女子職員が、お母さんの財布で食べたいアイスというコンセプトでモニタリングをしております。実は、来年4月の物産展の目玉商品にしましょう

と阪急梅田の仕入部長さんと話をしております、NHKの新しい朝ドラが始まりますので、これを追い風に売り込んでいきたいと思っております。

2枚目をご覧ください。これは、インバウンド対策でございます。これは宅配便を利用する方法もあるんですが、それだと輸送費に加えて空港での倉庫代や受け渡しの人件費がネックとなります。そこで発想を変えまして、帯広と千歳のお店がそれぞれの責任で同じ商品を販売しながら予約を受ける仕組みにしました。これだと、輸送や受け渡しを通常の営業コストで賄える上、藤丸が間に入ることで管内の零細企業や農家も参加でき、それが品揃えの強みになっていきます。先週スタートしたばかりですが、特に、豚丼のたれとブラウンスイス牛の評判が上がっております。ちなみに、このモニタリングを仕切っているのは、20台前半の女子で、一人は商工労働観光課、もう一人は総務課の職員でございます、振興局みんなで十勝を売り込むという意識を醸成していきたいと思っております。どちらの事業もゼロ予算でございますので、もしご関心のある振興局がございましたら、問い合わせいただくと幸いです。以上でございます。

【阿部副知事】

ありがとうございました。本件に関しまして、何かご発言等ございますでしょうか。

本日予定しております議題は以上でございますが、せっかくの機会ですので、発言等がありましたらお願いいたします。無いようでございますので、それでは最後に、知事から一言お願いいたします。

【高橋知事】

お疲れ様でございます。昨日の災害対応の連絡本部の会では、東京の方へ行ってございまして、本日午前中、札幌まで戻りました。

本日の庁議の議題、最初は台風第21号関係でございますが、被害が西日本ほどではないわけですが、被災された方、各方面で被害が報告されております。また、産業被害について、今後、出てくるであろうと思うところでもあります。今後とも、市町村あるいは関係機関との連携を密にしながら、状況の把握と、その対応に万全を期していただきたいと思っております。

2番目に、北海道150年事業について、3つの振興局からの事例的な報告を含めて説明があったところでございます。もう夏休み時期も終わりました、これから後半戦に150年事業がなっていくところでございますが、各地域の皆様とご議論して積み重ねてきた150年事業、しっかりと対応していただきたいと思っております。

それから3番目は、やや心配な農作物の生育状況についてであります。収穫の時期も迫ってございまして、水稲が5日遅れ、牧草、2番収穫の牧草も5日遅れ、それからサイレージ用のとうもろこしが5日遅れをはじめとして、てん菜は平年並みということもございまして、それ以外の軒並み今年は辛いんだなというように思うところでもあります。天候次第というところがあるわけではありますが、収穫に向けてそれぞれの地域の農政の力を活用して、少しでも多くの収量、そして味も確保できるように農家や関係の方々と一緒に頑張って対応していただければと思っております。

それから、十勝総合振興局から職員モニタリング事業などの報告がありました。こういったそれぞれの局が、創意工夫をしてそれぞれの地域のおいしいもの、産品を増やしていくことは大変良い取組だと思っておりますので、情報共有していただいて創意工夫をしていただければと思っております。

来週から3定議会が始まります。議会議論を深めながら、各分野における重要課題について、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

【阿部副知事】

以上で庁議を終了いたします。